

# 情報連絡員報告総括表（令和2年8月分）

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況							
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化					
製 造 業	食料品			4	1	3		4			4			4		2	2		1	3		3	1			4						
	繊維工業			3	1	1		2	1		2	1		1	2		1	2		1	2		2	1			3					
	木材・木製品			1	1				1			1			1		1				1		1				1					
	紙・紙加工品			2		1	1		1	1		1	1		2	1	1				2		2				2					
	印刷			1		1			1			1			1			1			1		1				1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品			3	1	2			3			3			2	1		2	1		2	1		3			3					
	鉄鋼・金属			1			1		1			1			1			1			1		1				1					
	一般機器		1	2	1	2			3			3			1	2		2	1		1	2		1	2		1	2				
	電気機器			1		1				1		1			1			1			1		1				1					
	輸送機器			1			1		1			1			1			1			1			1			1					
	その他																															
小計		1	19	5	11	4		16	4		15	5		4	16	1	9	10		5	15		15	5		1	19					
非 製 造 業	卸売業			2		1	1		2			2			2		2		X				2			2						
	小売業	2	4		3	3	1	5			4	2		2	4		3	3							6			2	4			
	商店街			1			1		1			1			1			1								1			1			
	サービス業	2	3	X			2	3			4	1	1	1	3		2	3								4	1		2	3		
	建設業	3	1							4			3	1		3	1					3	1					4			3	1
	運輸業	1								1			1		1								1					1		1		
	その他			1					1			1			1		1									1				1		
小計		8	12		4	5	3	16	1		15	5	2	6	12		11	9				18	2		1	7	12					
合計		9	31	5	15	9	3	32	5		30	10	2	10	28	1	20	19		5	15		33	7	1	8	31					

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和元年8月～令和2年8月)

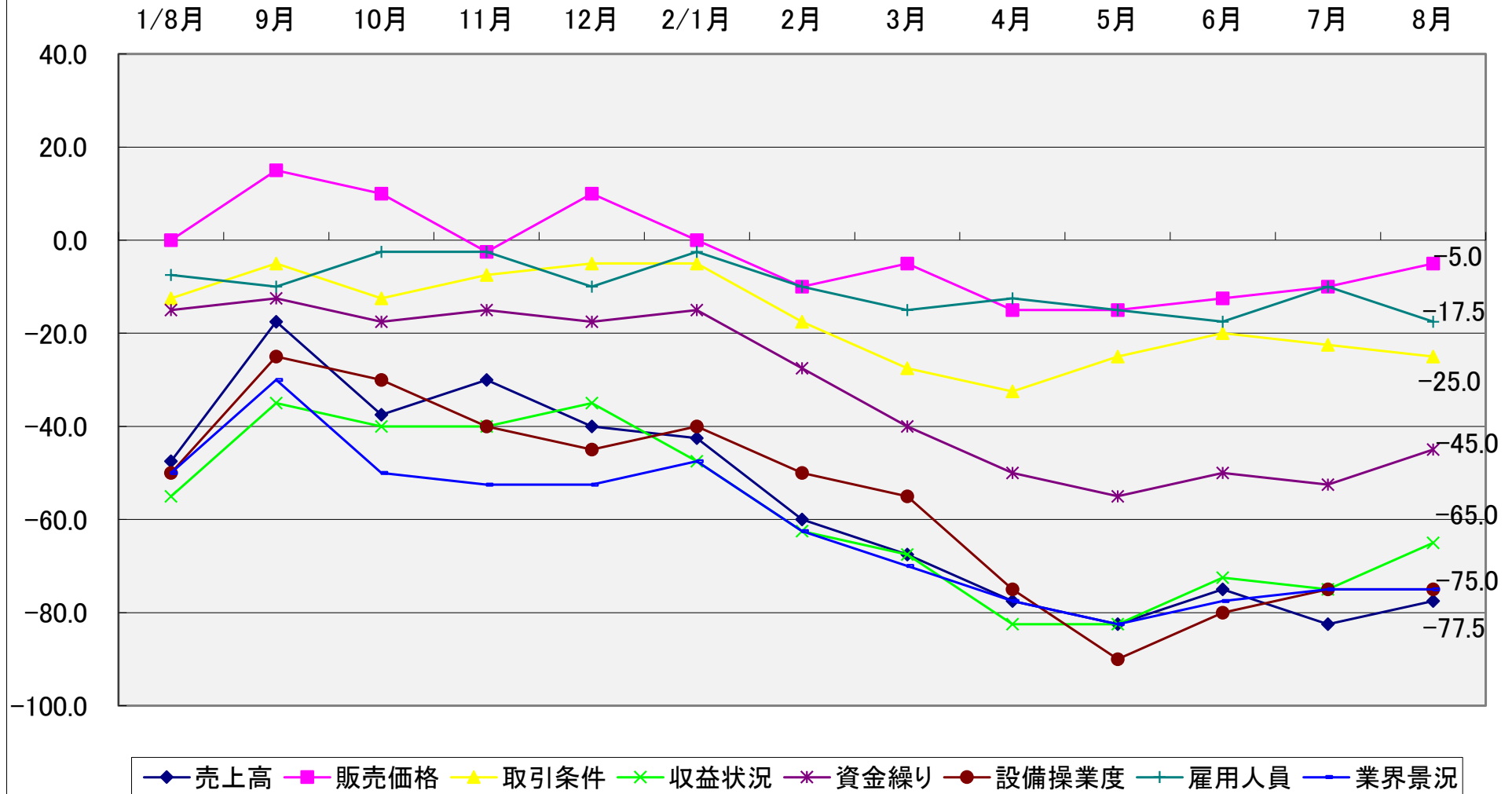
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	1/8月	9月	10月	11月	12月	2/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	増減
売上高	-47.5	-17.5	-37.5	-30.0	-40.0	-42.5	-60.0	-67.5	-77.5	-82.5	-75.0	-82.5	-77.5	5.0
販売価格	0.0	15.0	10.0	-2.5	10.0	0.0	-10.0	-5.0	-15.0	-15.0	-12.5	-10.0	-5.0	5.0
取引条件	-12.5	-5.0	-12.5	-7.5	-5.0	-5.0	-17.5	-27.5	-32.5	-25.0	-20.0	-22.5	-25.0	-2.5
収益状況	-55.0	-35.0	-40.0	-40.0	-35.0	-47.5	-62.5	-67.5	-82.5	-82.5	-72.5	-75.0	-65.0	10.0
資金繰り	-15.0	-12.5	-17.5	-15.0	-17.5	-15.0	-27.5	-40.0	-50.0	-55.0	-50.0	-52.5	-45.0	7.5
設備操業度	-50.0	-25.0	-30.0	-40.0	-45.0	-40.0	-50.0	-55.0	-75.0	-90.0	-80.0	-75.0	-75.0	0.0
雇用人員	-7.5	-10.0	-2.5	-2.5	-10.0	-2.5	-10.0	-15.0	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-7.5
業界景況	-50.0	-30.0	-50.0	-52.5	-52.5	-47.5	-62.5	-70.0	-77.5	-82.5	-77.5	-75.0	-75.0	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	醤油味噌	春頃、逼迫ぎみだった食品醸造用アルコールも輸入原料も今は落ちついているが、業況は低調である。業界としては集客イベントや品評会は中止だが、ふるさとのしょうゆプレゼントキャンペーンや10月2日（金）～4日（日）にイオン名古屋ドーム前で「三重・しょうゆ街道」イベントを試食なしで出展する。小学校へのしょうゆ出前授業も10月以降で県内5校からの依頼があり、実施する。組合グループ内会議も半年ぶりに開催したが、今後も理事会等を開催する予定である。東京での会議はリモートで行う。
	豆腐	8月も新型コロナウイルスの影響で外食産業への食材（豆腐油揚げ）の納品は減少したままである。
	製麺	第2波のコロナで飲食業は1～2割ダウンだった。観光関係はまだまだ厳しい状況である。コロナを受け止めて取り組んでいける環境にしていく事、伊勢うどんをより全国に発信できるように取り組んでいく事を念頭に売り方を考えていく。
繊維工業	組紐	7月と変わらずである。
	衣料縫製	少しずつ戻りつつあるが、まだ現状復帰とはいかない。早くコロナの収束を願うばかりである。
	テントシート	コロナの影響が収まらず、悪い業況が続いている。
木材・木製品	木材	新型コロナウイルスの影響により需要の減少で先が見通せない状況にある。
製紙・紙加工品	紙器段ボール	4月、5月の落ち込み程ではないが、以前、コロナ禍の影響と稼働日の少なかったことで、受注量は減少している。7月の全国の紙と板紙の国内出荷は、174万9千トン、昨年同月対比で14.6%の減少である。12か月連続の減少となった。紙（印刷用紙等）は、イベントや広告紙等の中止が大きく影響し27.2%の減少であった。板紙（段ボール原紙）は5.2%の減少であった。
	古紙	8月期の古紙仕入量は：段ボール・約94±4%位、新聞、チラシ・約82±18%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約95±12%位の模様である。本年は特に体温を越える酷暑が多く、合わせてコロナ感染症による集団回収の中止や延期により、月次取扱量の増減に大きく影響している様である。紙製品は国内景気に連動しているものが多く、段ボールは巣ごもり需要で増えている業種もある様である。三重方面の新聞や雑誌の古紙持去りは明らかに減少し行政回収等の通常ルートに10%程度帰ってきた印象である。飲食店や旅館等のサービス業は、壊滅的な売り上げ減少の所が見受けられる。今はまだ存続しているがタクシー業界の様に私たち古紙業界は、自動運転の様な技術革新によりペーパーレスIT化の波が打ち寄せており、気が付いた時には壊滅的打撃となっているだろう。
印刷	印刷	業種により若干の差はあるが、今月も受注が大幅に減少している。元々閑散期でもあり、非常に深刻な業況である。
窯業・土石製品	伊賀焼	イベント、催し物は中止になっているものが多いが売上については徐々にではあるが回復傾向にある。陶芸教室の申込については学校からの申込予約が特に増加している。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産高は7月同様新型コロナウイルス感染状況が一向に収まらず、未だに不振状況は脱していない。特に自動車関連部品は伸び悩み、他の製品に関しても同様である。一方半導体関連は減少幅も少なく、メーカーによって違いがあるものの、やや増加の状況である。今後も同様の動きをするものと思われる。
一般機器	四日市	景況感是不透明ながら、7月に比べるとやや下げ止まりの様子がみられる。とは言えコロナはまだ終息の気配はなく、経済環境は厳しい。「自助努力」あるのみである。
	津市	海外が少しずつ動き出したとの情報はあるものの受注はそれほど増えていない。物の種類によっては偏りが大きく、残業しなければ追いつかない所もあれば、休業を実施している所もあり、バランスが悪い。また、8月は夏季休日があり、稼働日数が少ないため、売上は低調のままである。
	伊勢	新型コロナウイルスの感染拡大は7月にピークを迎えていたと言われているが、経済にはそんな感じはなく、厳しい状態が続いている。年内は今の感じで進むと思う。
電気機器	鳥羽	新型コロナウイルスの影響がではじめ、受発注は10～40%減である。50%以上減少している部門もあり、雇用調整助成金を使い、休業態勢を減している。
輸送機器	鈴鹿	全体的に9月以降の計画数には回復の兆しが見受けられ、一部の自動車メーカーでは、ほぼ通常生産に戻ってきている。しかしながらメーカーによっては未だ需要が戻っておらず、過剰在庫で年内の受注再開が見込めない部品もある。
	青果	野菜前半：長雨の影響が残り、キャベツ等葉物を中心に高値が続く。じゃがいも、人参は北海道産が増え、お盆明けには価格も落ち着きそう。トマトは平年並みの価格である。オクラも主要産地である九州産は遅れぎみだったが、ようやく価格も例年並みになった。野菜後半：全体的に例年より高値が続くが、天候が安定し一時期より落ち着いてきた。じゃがいも、人参、玉葱の入荷が安定している。なす、ミニトマトも値下がり、高値が続いていた長野産レタスの価格が例年より安くなってきた。果物前半：スイカが暑さや夏休みで需要が増え、値上がりしてこれからはますます高くなりそうである。桃は山梨産、長野産の入荷が少なく高値である。果物後半：県内産の幸水梨も高値が続きそうである。愛知産の巨峰、ピオーネがピークを迎えている。長野産パール味は最高である。今年はお天気続きでいちじくが美味しくお買い得である。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
小売業	自転車	去年と比べればまだまだであるが、自転車の販売台数はやや持ち直してきた感がある。点検、整備については天候も落ち着いてきたためか、例年並みとなってきた。今、世間の最大心配事はコロナ禍に加え、非常に高い気温による熱中症となっている。自転車業界としては声を大にして「自転車に熱中症はない！」と叫びたいところである。自転車でペダルを一漕ぎ踏み出せば、いきなり風速5mの強風に向かって突入である。まだ残暑は厳しいが、お買い物は自転車利用をおすすめする。
	電器	8月は、梅雨明けが遅く暑い日が続くも前半はエアコンを中心とした季節商品の販売が苦戦傾向であった。中旬以降の暑さで販売は持ち直し気味になって来たが、前年をクリアすることは出来なかった。但し、前年は消費税アップ前の駆け込み需要が始まっており単純に比較することは難しい。只、新型コロナの感染拡大の影響は大きく、4月からの累計では2桁に近いダウンである。また、酷暑の中の作業で販売店の体力も限界に近い状況であり、暑さが販売に比例していない。在庫面では、エアコンを中心に改善方向である。但し、メーカー間で格差はあるが品薄・品切れの商品もある。
	石油	8月の中東原油価格は前月同様40\$台で落ち着いているが元売り価格は上昇気味であり店頭看板価もじわじわと上昇している。ガソリン等の販売量は前月と同じく新型コロナウイルス発生前の70%台で推移している。これから秋の行楽シーズンに入り、Go toトラベルキャンペーンによる旅行からのガソリン消費が全体消費の牽引役となることを期待する。
	スポーツ	あつという間の8月であった。スポーツイベントの殆どが中止、あるいは縮小となり、いろいろな大会を行う機会が少なくなってしまった。それは言い換えればスポーツ用品を使用する頻度が少なくなることで、当組合員にとっては大打撃である。組合員には各種給付金もしくは補助金申請するように檄を飛ばしたところである。早く今までの状態に戻ってほしいと思う。このような状況なので今年は賦課金徴収を中止にした。2020年は今までの少しの蓄えで乗り切り、2021年の国体ビジネスにかけたいと思っている。
	熊野市	8月に入り、感染者数の再度の増加により飲食業を中心に厳しい状況である。特にこの地方においてはまだ感染者が出ていない事もあり、1番目の感染者になりたくないという不安感も市民の中には多く、自主的に営業を自粛している店舗も多くあり、お盆明けまでの期間の休業を決めた店舗も多くあった。
サービス業	旅館	8月は年間を通じて最も売上のある期間であるが、今年はコロナの自粛とGO TOトラベルキャンペーンの混乱の中にあって過去に経験のない最盛期の営業となった。8月も個人客中心で団体客は皆無であったため、団体客、インバウンド客の比率が高い施設は、対前年20%程の稼働で80%マイナスと極端な例もあるが、殆どの施設は稼働の戻りは50~60%位で、売上の戻りは60~70%位であった。これは宿泊単価が上がった事と従来のような定員集客ができなくなった事が如実に出ていた。
	測量	仕事柄、新型コロナウイルス感染の可能性は少なく作業には影響なし。防災協定を締結している伊勢市より災害復旧の業務を受託する。公共事業の受注は、各社例年並みである。民間に関しては、減少のみである。
	警備	今年度は猛暑であり、晴日の連続のお盆休みがあったが、稼働日数が多かった。
建設業	内装工事業	新型コロナウイルスの影響がでてきたのか、8月は対前年同月比で大幅な減少となった。建設業界も殆どの建設受注が減少または契約の延期が増える中、年間計画は見通せない状況である。
	水道工事業（亀山）	特になし。
運輸業	トラック	燃料価格は7月に引き続き上昇した。新型コロナウイルス感染症の第2波の影響があるものの国内景気は改善の兆しがあり、運輸業においても7月に引き続き運輸量が増加した。

## 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	より安全、安心に商品作りに邁進して、お客様の信頼を与える企業に取り組んでゆく事が組合員の使命である。
一般機器	四日市	政府のトップが突然辞めてしまった。一刻の停滞も許されない現状をどのように打開していくのか。国民の不安は高まる一方である。
サービス業	旅館	感染防止上、外出を自粛する事はやむを得ないが、8月は近くの（県下も多い）お客様がファミリーで2泊~5泊位されて、リフレッシュされている姿やお客様の声を発信してほしい。
	測量	会員の半数は、後継者がいない状態で現状維持も難しい状況である。